

令和6年7月26日
健康福祉部疾病対策課
043-223-2574

感染症予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症（O157）		
住所	匝瑳市	年齢・性別	73歳・女性
職業等	無職	症状等	下痢、腹痛、血便、溶血性貧血、急性腎不全、溶血性尿毒症症候群（HUS）
発病年月日	令和6年7月16日	届出年月日	令和6年7月24日

匝瑳市在住の73歳の女性が、下痢、腹痛等の症状を呈し、腸管出血性大腸菌感染症及び溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断され、海匝保健所に発生届が提出された。

患者は、現在、成田市内の医療機関に入院中であり、快方に向かっている。

〔患者発生の経過〕

- 7月16～17日 下痢、腹痛症状が発現
- 7月18日 血便が見られたため、匝瑳市内の医療機関Aを受診。
CTで広範囲の腸管浮腫を認めたため、医療機関Aに入院。
- 7月21日 血小板減少、HUSを疑う症状が見られたため、成田市内の医療機関Bへ転院。ICUへ入室。
- 7月23日 便検査によってO157（VT2）の陽性が判明
- 7月24日 医療機関Aから腸管出血性大腸菌感染症の発生届が提出

〔県民の皆様へ〕

- 調理や食事の前、動物や土に触った後には、必ずせっけんを使用して十分に手を洗いましょう。
- 細菌が残っている場合があるため、肉を調理する場合は、中心部まで十分に加熱しましょう。また、「生肉を扱う調理用の箸やトング」と「焼けた肉を扱う食事用の箸やトング」とを必ず分けましょう。
- 溶血性尿毒症症候群（HUS）など非常に重症な状態になる場合もありますので、下痢、血便等の症状がみられた時は、早めに医療機関を受診しましょう。
- 社会福祉施設、介護保険施設、学校等においては、日頃から職員、施設利用者等の健康管理に注意しましょう。

【参考】

腸管出血性大腸菌感染症とは

1 感染経路

- ・腸管出血性大腸菌は牛など家畜の腸管内にすることがあり、その糞便で汚染された食品や、糞便で汚染された場所を触った手指から経口的に感染する。

2 腸管出血性大腸菌とは

- ・大腸菌の中にはベロ毒素を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす腸管出血性大腸菌と呼ばれているものがある。代表的なものは「腸管出血性大腸菌 O157」で、そのほかに「O26」や「O111」等が知られている。

3 潜伏期間

- ・3～5 日がもっとも多い。

4 症状

- ・腹痛、水様性下痢、血便
- ・嘔吐、38℃台の高熱
- ・重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS*）になる場合もある。

*HUS とは

溶血性貧血、血小板減少、急性腎障害の3主徴をもって診断する。一般に HUS は腸管出血性大腸菌感染症の患者の約 1～10%に発症し、下痢あるいは発熱出現後 4～10 日に発症することが多い。

5 治療

- ・対症療法
- ・脱水に対する処置（補液など）

6 年別発生状況（腸管出血性大腸菌感染症届出数）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年※
千葉県	124	131	149	154	48
全国	3,088	3,236	3,352	3,811	1,259

※千葉県分は1月1日～7月21日までの累計(本件を含む)。全国分は2024年第28週現在。